

案件概要書

2022年10月25日

1. 基本情報

- (1) 国名：ホンジュラス共和国（以下、「ホンジュラス」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：フランシスコ・モラサン県（人口：約1.7百万人：国家統計局の2022年推計）国道六号線16.3km地点
- (3) 案件名：国道六号線橋梁建設計画（The Project for Construction of Bridge in National Road No.6）（以下、「本計画」という）
- (4) 計画の要約：本計画は、首都テグシガルパと隣国ニカラグアとを結ぶ主要国際幹線道路である国道六号線の地すべり箇所において、橋梁を建設することにより、自然災害への脆弱性の低減による安全かつ円滑な物流網の整備を図り、もってホンジュラスの経済基盤強化に寄与するもの。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

ホンジュラスを含む中米地域においては、域内の安定と繁栄を図るため、中米統合機構（SICA）を中核とした政治・経済面での地域統合が進められており、その円滑な進展のためには域内国であるホンジュラスの安定及び発展が不可欠である。他方、ホンジュラスは、中南米の中でもハイチ、ニカラグアに次ぐ貧困国であり、特に都市部と地方の所得格差が大きく、地方開発や地方経済の活性化が課題となっており、日本からの支援に対する期待が高い。

また、ホンジュラスは、低所得を主な要因として、米国を目指す移民キャラバンが発生する中米北部3か国の一つ。米国も、中米移民問題への対応及び同国の地政学的重要性の観点から、最近、同国との関係強化を進めている。本件支援は、物流の改善を通じた経済活性化により当該地域の貧困対策としての側面もあり、移民発生の根本原因の課題解決にも資することから、2021年4月の日米首脳会談のフォローアップとして中米移民問題への対応における日米連携としての意義もある。

本計画は、首都テグシガルパと隣国ニカラグアとを結び、同国及び中南米地域の物流網を支える中米地域の主要国際幹線道路である国道六号線の地すべり箇所において、日本が防災に配慮した橋梁を建設し災害の懸念を取り除くことで、同国及び周辺地域の経済の活性化に寄与するものである。同計画において、ホンジュラス側は、災害対策に係る設計・施工に対する非常に高い信頼から日本の技術を用いた対策を要請してきており、無償資金協力を通じた日本企業による確実な実施を期待している。本計画を通じ、重要な幹線道路における災害対策を支援することは、長らく防災分野において信頼を築いてきた我が国として、同国の期待に応え、ひいては二国間関係の強化に資するとの観点から極めて重要である。

また、JICAは、実施中のSICA案件（中米広域案件）である「持続的で経済開発・地域統合のための中米地域物流ロジスティクス開発中米物流マスタープラン策定支

援プロジェクト」において、中米地域の物流円滑化、中米地域内各国の貿易促進・経済振興、災害に対する強靱性強化の観点から基幹交通ネットワークに関する議論を各国関係機関と進めているところである。その中で、パンアメリカンハイウェイ（CA1）の二重ネットワーク化（CA1の1軸に依存している物流をCA1に並行するネットワークを整備し冗長性を強化すること）が災害に対する強靱性強化のための最重要課題の一つとされている。本計画の対象の国道六号線（CA6）は、首都テグシガルパと隣国ニカラグア首都マナグアを最短距離でつなぐ重要な国道であることから、中米地域の物流円滑化、中米地域内各国の貿易促進・経済振興、災害に対する強靱性強化の観点から、本計画は、ホンジュラスのみならず中南米地域の持続的な発展にとって重要である。また、2018年12月に安倍総理（当時）がアルゼンチン訪問の際に提唱した「日・中南米連結性強化構想」における経済・価値・知恵の連結性強化のフォローアップという観点からも、高い外交的意義を有する。

（2）当該国における運輸交通セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

ホンジュラスにおいては、陸上貨物の大半が車輛で輸送されており、物流は道路輸送に大きく依存している。同国の政府計画（Plan del Gobierno、2022年~2026年）では、「質の高い道路インフラの整備」を重要課題の一つと位置付け、災害への強靱性強化を目標の一つに掲げている。中でも約8,000台/日の交通量がある国道六号線は、同国とニカラグアとの間の物流を支える国際幹線道路の一部であり、今後も交通量の増加が見込まれている。しかし、国道六号線は山岳地帯を抜けるルートであり、降雨、土砂、地すべり事故等の自然災害による通行止めや、それに伴う大幅な迂回（約50km）が頻発している。このような状況を踏まえ、JICAは無償資金協力「国道六号線地すべり防止計画」（協力期間：2017年~2019年）にて、14.7km地点、22.0km地点、及び63.0km地点において地すべり対策を実施し、自然災害への脆弱性の低減と安全且つ円滑な交通の確保を図った。

同国政府は16.3km地点についても、世界銀行からの融資を受けて鋼管杭による抑止工及び排水対策工の地すべり対策を実施した（2014年~2015年）。しかし、対策が不十分で2016年から施工箇所での地すべりが拡大している。この箇所が損壊すれば、大事故に繋がるだけでなく、国道六号線が通行止めとなり、テグシガルパ首都圏を中心に物流網が麻痺し多大なる経済損失を招く恐れがある。さらに、国道六号線が通行止めとなれば、上記のJICA実施の無償資金協力の効果が損なわれる可能性もある。これに対して、ホンジュラスのインフラ・運輸交通省は、地すべり対策では安全性が確保できないことから、当該16.3km地点を橋梁でつなぐ国道六号線橋梁建設計画を我が国に要請した。当該箇所への対策工の設計には十分な経験を有する技術者が必要と判断し、資金的な協力だけでなく、調査や設計段階から技術的に信頼性の高いコンサルテーションを得ることができる我が国の無償資金協力に期待を寄せている。

本計画は、同国の開発課題・開発政策並びに我が国及びJICAの協力方針・分析等に合致し、主要国際幹線道路である国道六号線の地すべり箇所に対し、①自然災害による被害拡大や再発を避けるための緊急的な対応と（「緊急性・迅速性」）、②人

間の安全保障の観点から、自然災害など個人の生命、生活に対する脅威へ対応（「人道上のニーズ」）するものである。また、同国の物流網を支える幹線道路において日本が橋梁を建設し災害の懸念を取り除くことで、同国の経済の活性化に寄与するものであり、SDGs のゴール 9（産業と技術革新の基盤をつくろう）とゴール 11（住み続けられる街づくりを）に貢献するとともに、日本のプレゼンス強化に寄与する。以上より、無償資金協力として事業の実施を支援する必要性は高い。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

- ① 計画内容：施設内容は、橋梁の建設（総延長約 100m~200 m）。コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントは、詳細設計、入札補助、施工監理、ソフトコンポーネントによる技術指導（橋梁の維持管理手法、地すべりの安定性評価とモニタリング手法等）
- ② 期待される開発効果：自動車平均走行速度：20km/h（2022 年実績値）→60 km/h（2030 年）及び、地すべりによる全幅員通行止め回避による経済効果：0 USD/年（2022 年実績値）→608,084 USD/年（2030 年）による経済活性化への貢献。
- ③ 計画実施機関／実施体制：インフラ・運輸交通省（SIT：Secretaría de Estado en el Despacho de Infraestructura y Transporte）
- ④ 他機関との連携・役割分担：特になし。
- ⑤ 運営／維持管理体制：インフラ・運輸交通省が運営・維持管理を担当する。

(2) その他特記事項

- 環境社会配慮カテゴリ分類：B
- ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）
- ホンジュラスの所得水準は相対的に高いことから、「所得水準が相対的に高い国に対する無償資金協力の効果的な活用について」に基づき、無償資金協力の供与の適否について精査が必要である。同国は、自然災害に対する脆弱性が大きく、被害拡大や再発を避けるための緊急的な対応と（「緊急性・迅速性」）、人間の安全保障の観点から、自然災害など個人の生命、生活に対する脅威へ対応（「人道上のニーズ」）が必要であることから、無償資金協力の供与が適当と判断できる。
- 他の援助機関の対応：世界銀行は国道六号線 16.3km 地点の地すべり対策事業へ融資（2014 年~2015 年）、米州開発銀行（IDB）は同地点の変状調査への融資（2020 年~2021 年）を実施している。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

ニカラグア共和国向けの無償資金協力事業「サンタフェ橋建設計画」（2017 年）の事後評価では、過積載車両が多く通行したことにより、道路路面や道路構造物に大きな損傷を与えたことから、過積載車両をコントロールすることが教訓として示された。本計画では、起終点調査時に過積載車両の通行が確認される場合には、過積載防止の必要性及びその対策について検討する。

[別添資料] 地図

[別添資料] 写真

[別添資料] 地図



出典： [国道六号線地すべり防止計画 | ODA見える化サイト \(jica.go.jp\)](http://www.jica.go.jp)



注：橋梁の基礎が地すべり範囲外になるように、橋梁の建設地点は山側へシフトする想定。

出典：左：米州開発銀行 国道 CA6 (テグシガルパ - ダンリ) 16km 地点変状調査報告書。右上：ホンジュラス地理院、右下：グーグルマップ

[別添資料] 写真



橋梁イメージ



現状写真